

洞房妓談  
繁子話

京傳作

13  
2947  
13







江左都門北華街幾追尋  
 美人粧白玉佳子擲黃金  
 嬌態千夫惑姝顏萬客臨  
 洞房何處曲籬郭孰家音  
 傳陌朱唇韻渴雲皓齒吟



晝思翡翠席，夜娛鴛鴦衾，  
豈有風流薄，當看妖艷深，  
鄭叡兮衛色，恐是古猶今。

ちりろろー

洞房妓談

綴千話叙

その子綴系野話とよぶもの


あり。古今の奇談哉

載其言夜話

むくくや



世よ せよ ち ち こ こ る る へ へ け け くる くる  
 亦 また 船 ふね あり あり。此 こゝ 船 ふね 千 ち 話 わ  
 と 題 だい ころ ころ も も の の き き。洞 ほら 房 ぼう 庄 じょう  
 妓 き 流 りゅう よ よ ー ー く く。オ オ ス ス。サ サ ニ ニ ス  
 の の 方 かた 言 げん 那 な り り。も も ー ー 世 せ よ  
 城 しろ 本 もと 屋 や の の 太 た 八 はち 如 ごと き き が  
 ち ち の の ロ ロ ノ ノ ニ

是 これ を を 閱 よみ て て 首 くび と と ち ち ゝ ゝ と  
 ち ち っ っ か か ら ら。予 こゝろ 信 まこと く く ー ー と  
 ち ち っ っ を を 書 か 肆 し 乃 すなは 幸 さい 乎 や  
 ち ち っ っ 人 ひと 乎 や  
 山 さん 東 とう 居 き  
 京 きやう 傳 でん 述 じゆつ  




黒稲荷  
介

般々  
千話  
人物各目録

馬膏

たん

いん男

女

まきざん

いん

女びのや

花きね

鳥きね

風の戸

やろ

ちろ二

敏子千話



游閑公子。飾冠劍。連車騎。亦為

富貴容也。女郎のつめよ。えはうら

る昔も今もさうぶらな。かの川柳

急よ。色男。繡練で首と括やうしと之

はま。情と穿。白やう。今。娼門。入遊

客と。又。海。よ。恋。守。よ。長。根。と。ち。よ

京傳著



英令と喰ひ。流藝は練うは。よく高世に  
返り笑ふは通じて。鄧通が富貴播  
安が容貌も我おほして大坂の鳴池や  
の訥子ありも。なほ沖と潜ぎ。今この  
本も萍植より。赫赤女まゝつてあつて  
都も保之えは。皆妹妓雛妓。不長  
保兒贅の元と假母。やまゝとやまゝ  
び思ひぬんぐ。このめよ。後師る。りよ  
ちり

素我乃はおまをき。るゆ。おんハ。或を合  
根の物おと万遠。又とあはるゆ。も知し教  
して。人よ心こえ。らるる。多し。は。真  
の通客。よあ。は。通。は。似て。非。る。者。多  
え。を。未。至。通。とい。川。つ。屋。一。當。世。世。徒  
事。し。教。は。何。屋。とい。る。ま。そ。る。り。居。る。方  
ま。か。る。女。郎。屋。の。二。階。廊。下。に。あ。ま。て  
何。や。ん。練。る。る。ゆ。あり。一。お。後。と。ま。て



茶之 正助 コリヤア 悔むかまド 廿 新造 善後

ごんぢやあつらひあかんとあひまゐる  
こくもあま建とひねりあぐら あいさつやんで  
ヤレヤウガマアこふでござん氏あひの五節  
さんとあやめさんと色事いろことの知ちはつらちも  
とうよ知ちつてあんもーえん音かちあて  
ーやくまん くらぬどつろーが目よ  
かりぬうちを知らぬ執しやくで居ゐこー  
五節さんうぢの櫛うぢの紫さんの客人きやく櫛うぢの

ちり二

紫えん、こつちの片かたの形かたち遠とほくても  
ござんせんうまよあの雛ひな形かたちさんがゆんべ  
あつてもあつていひあんをよまけ色事いろことの  
かケはつらちがあつたうらあやまさん  
よハぬこもいひあんをよまこまでも  
あつていひあんをよまこまでも  
くももいひあんをよまこまでも  
まんの客人きやくよあつてえんせん







さんのそんらきどくそんら中の所であひ  
 るんまがいのサそおハ大目ニそつス  
 しや見えぬのよーハよーみそこれ  
 ぶらう飾形さんのよみハそとけらぬ  
 をめく<sup>正</sup>マツキバツキ夜法むでこさうやんのサ  
<sup>番</sup>ハテセ写よーくもまらぬぶりのそや  
 うまーく云のトヤアこざんせんいちがうくて  
 云と思ひらんまをく<sup>正</sup>にサおめくつらて居

ちじに

るころこののを<sup>番</sup>そらちえんひのめくも  
 目まやうよひのこに本もそおハ又ら  
 ちもつようらぶまようこざん<sup>正</sup>ひまが  
 ニ本をらちやうのちらよアおとが  
 ろぶいでこざりやーや<sup>番</sup>志やれどやアこざん  
 やん トあやのひまのひまをうめひまのあひまを  
 まだめがさうぶらとらちまはまはまひあめ  
 をあうそよ <sup>正</sup> 今やめをまはまのまてそれどやひく  
 中このや 新造買のちと色ひくそ今やそはま  
 海おさまりーとおはまはあがり袖新造のわそよより  
 てらづよめれそそやそ入そとへどむのる





京傳画



528















かくらぐらぐらとあつてあやふまあり **茶男** 子イ親ゆじん  
 まがきの方とまもやんのねとまも  
 く **廻方** 二階ハえんるまきうて居るううト反反  
 ぶよ化ゆがツけひまうてこのていとりくして  
 ろるねまぶおん反反とくくくねまうこち  
 へお入レヤウ トまきてト **骨** ぶいぬきまぶあ ト反  
反反反 **茶** 今あくると持て系うま  
 茶 **茶** てうちん **茶** てん **茶** てん **茶** てん  
 下反反のうううううううううう **茶** てん **茶** てん **茶** てん

いるぶまの舟ぶああの花糸ハ竹をぶが  
 つとよくるを植おはぶも茶研堀の沙緑目  
 ぶぶおもねうらハねく トモ **茶** てん **茶** てん **茶** てん  
 行も燭とお片ぬは盃産小指子  
 とひつけ一夜はおまらつて名代の振袖  
 新造東うれより廻方勅使之夜よ  
 をよびーうバ空琴ハかーやうくくまありお  
 定りの盃まひる骨う反反のーうらちう



と茶とのむも茶の湯のなつまでのみ酒  
とつてくひ紙入る琴の糸と出でて見せし  
くし狗のつみひりぞうり教室琴の始儀  
を云まくつて然としくおし紙に女藝  
者二組は来てくれこれと時うつりむづん  
るるう形空琴がこのふよよりつる骨が床の  
色男の隣へとさまり皆く改るおる骨の  
色し床の中よ大わくう流舞の煙茶を

せ獅子のううろろる松よ口と鼻も煙をい  
て希ち 名代 辰風の外あどりのをばよびのうそ  
ぶぬつスーヤウリ 松 松 松  
廊下 松 松 松 松 松 松  
松さん 松 首尾の枝えんの松えんサウヤウ  
くひさん 松 松 松 松 松 松 松  
女 郎 風 萩 三 之 百 方 編 の ま は 念 珠  
ね 車 座 よ る り 火 鉢 を り ま い て







少人ちうじんと名なおてやばハ **先** ト笑ひる **アイ** 切られちがて **月の戸**

これハ物おちれてまゝに 幸ひありのや まがくつことんえ とありをみてうごくるこの 助をとおあき優い 寛いときくくれを えんがんうめえんでう おぎ がうわかとまあり 風 おぎ 萩 おぎ さえ一より一縁おくりしめて

ありやアアいせんいせんはちやんとつらちをま

いよよとあんあんするああの坊坊をよよおるとがいあ

えぬえぬでれぬれぬとつてやアアいせんいせんとつらちをま

つてまよまよしんしんをる生生をり死死かえりう

らんでやばやばッッ **風** おめくああの坊坊ささんのああごごな 妾名

と知つて居るえんえん **月** イ **風** 玉眼入の炭

**月** と **月** を **風** あ ご ま う 丸

くくて色いろががああくくつて目めををううり光ひかりりりままうう

さ**月** ホ ニ と よ ご よ な で あ ね く は 色 が あ い

ぬぬく色いろののああいいががああるると思おもつて居いるる秘ひし

そりやアアそそややとおおままキキああんんーーせんんどのの屈く屈く

ううままののままええんん **花** モ シ イ 伊 勢

屋やの内うちと角つ文ぶ字じさんさんと神かみ風かぜさんさんとおおめめえ



と何れ鉄橋であつて一もふがつりり  
 むのめでござんまぬ風け子時くとうる  
 るりと云はま子とよ三の鉄橋といふ  
 とはいつ鉄橋といふと初てゆいと笑ふ  
花 廊下にて  
花 花夜さんくおひんがお出  
あびびし 今アアと糸リシとヨ  
あびびし トきてあうととあけるギうついて  
あびびし 子モぢれつて  
あびびし 障子とヨウ風 ヲット氣とよくしてあけを

ち巳十三

人―氣といふくあけとあわぬヨ月を結  
 さんそりやアあんとく  
読 月そのうらちつとよ入ておせまあ人―ナ  
読 誰うまといつそよあ人せんヨ  
トク人ぎをぬい ていつ―もト重―は花るれど  
てあんどをがま 八重―は候―にがれ死もよ―死ごら頼  
あま ままぢる祿のり色とあるるといふす  
あま られと花とや若木とや散ぬらち







京町（作）の條（係）のおれと今（今）有（有）馬（馬）のしと久  
せ（せ）癖（癖）續（續）してけ方へまうし多（多）驚（驚）羽  
かすりのきめ改（改）仲（仲）流（流）りけ坊（坊）とらんを唇  
風俗（風俗）店下（店下）「ツアかひてまう安（安）のらんあの上  
州（州）廢（廢）紀（紀）逸（逸）臭（臭）く（ト）馬（馬）骨（骨）子（子）足（足）下（下）の  
得（得）采（采）如何（如何）不（不）按（按）大（大）ド（ド）ロ（ロ）コ（コ）及（及）知（知）の（の）こ（こ）を  
ト（ト）ロ（ロ）コ（コ）と（と）ま（ま）し（し）醫（醫）者（者）の（の）仲（仲）強（強）  
り（り）ま（ま）る（る）れ（れ）詩（詩）あり（あり）「（）お（お）め（め）を（を）せ（せ）今（今）時（時）に（に）  
ま（ま）う（ま）山（山）の（の）武（武）者（者）取（取）て（て）大（大）天（天）の（の）惜（惜）頭（頭）あり（あり）さ

ら（ら）く（く）ら（ら）と（と）取（取）て（て）西（西）三（三）個（個）の（の）客（客）が（が）あ（あ）る（る）とい（い）ふ（ふ）ち（ち）つ（つ）サ  
わ（わ）ら（ら）て（て）な（な）ま（ま）へ（へ）い（い）れ（れ）ら（ら）と（と）し（し）の（の）取（取）り（り）平（平）氣（氣）で（で）ら  
し（し）や（や）ら（ら）て（て）調（調）唇（唇）弄（弄）舌（舌）と（と）ま（ま）う（ま）え（え）て（て）ち（ち）らん（らん）乃  
ご（ご）と（と）と（と）り（り）あ（あ）つ（あ）ふ（あ）ら（あ）う（あ）ら（あ）の（の）か（か）け（か）ご（ご）と（と）ま（ま）の（の）妓（妓）も  
く（く）ら（く）れ（く）ぬ（く）わ（く）ら（く）と（と）お（お）れ（お）も（お）只（只）顧（顧）嘆（嘆）息（息）——  
あ（あ）い（あ）つ（あ）柴（柴）胡（胡）湯（湯）の（の）性（性）で（で）ぜ（ぜ）「（）あ（あ）ら（あ）ふ（あ）な（あ）の（の）あ（あ）ご  
れ（れ）こ（れ）う（れ）あ（れ）め（れ）は（れ）け（れ）れ（れ）て（れ）居（れ）ら（れ）う（れ）ま（れ）う（れ）わ（れ）く（れ）ら（れ）あ（れ）の（の）傾  
ま（ま）景（景）物（物）点（点）の（の）誹（誹）詠（詠）と（と）ま（ま）る（ま）氣（氣）で（で）欲（欲）心（心）を（を）ら（ら）う（ら）



かつて居るぜふてうしのねくらちみサく  
[大]どふしてアても欲心がどましくいあそ  
この内の老松板がまろきざざロウサン、ソウシキ  
[了]ふらふねがどふこと [大]イヤあそこの  
内の假母のふヨ [了]ウやうてりコウ吉ほらう  
いのとどごやーとあんとらうと思ああめ  
やうてハ吊乃鼻の龍頭といふ面どさ  
トヤアごせせんか [大]奇々姓々とさる婦人

おれはう寝ておろろのさう張袖を揚てそ  
らひて入 [茶]女ハイちやうさうさんとトス女郎  
流ハごさうまをん [大]おきやアれ振袖彩造  
のるヨ [女]ヘエもくつらハヌ女郎流の  
なうとぞんトマールかこまのオウと下  
[了]んらアさちるんヨ京町のおめへの傾も首  
をうらうらうて野志あめの翹どアサキ  
斜理通の言 [大]うまアねく舖の昆布巻井オサキ



まろしうモウ殆<sup>おひそ</sup>まつさる<sup>る</sup>日光<sup>ひかり</sup>蠅<sup>は</sup>  
石<sup>せき</sup>の壘<sup>い</sup>尺<sup>ぶち</sup>ドヤアあるめーとあるのそれわへの  
とそんをこすまのるハ今<sup>いま</sup>夜<sup>よ</sup>のちうちを幸<sup>さい</sup>  
よきれて志<sup>し</sup>まつて夜<sup>よ</sup>の内<sup>うち</sup>でけ<sup>い</sup>わゆる未<sup>み</sup>練<sup>れん</sup>を  
ぶしなさんあく<sup>く</sup>大<sup>だい</sup>時<sup>とき</sup>は足<sup>あし</sup>下<sup>した</sup>の今<sup>いま</sup>を夜<sup>よ</sup>の世<sup>よ</sup>  
界<sup>かい</sup>ハ<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>な<sup>な</sup>へハ<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>わ<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>る<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>ある  
女郎<sup>ぢやうらう</sup>でござい<sup>い</sup>な<sup>な</sup>後<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>妙<sup>めう</sup>サ<sup>サ</sup>大<sup>だい</sup>サ<sup>サ</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
佳人<sup>かじん</sup>花<sup>はな</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>こ<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>バ<sup>バ</sup>そ<sup>そ</sup>め<sup>め</sup>であ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>

まろしうモウ殆<sup>おひそ</sup>まつさる<sup>る</sup>日光<sup>ひかり</sup>蠅<sup>は</sup>  
石<sup>せき</sup>の壘<sup>い</sup>尺<sup>ぶち</sup>ドヤアあるめーとあるのそれわへの  
とそんをこすまのるハ今<sup>いま</sup>夜<sup>よ</sup>のちうちを幸<sup>さい</sup>  
よきれて志<sup>し</sup>まつて夜<sup>よ</sup>の内<sup>うち</sup>でけ<sup>い</sup>わゆる未<sup>み</sup>練<sup>れん</sup>を  
ぶしなさんあく<sup>く</sup>大<sup>だい</sup>時<sup>とき</sup>は足<sup>あし</sup>下<sup>した</sup>の今<sup>いま</sup>を夜<sup>よ</sup>の世<sup>よ</sup>  
界<sup>かい</sup>ハ<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>な<sup>な</sup>へハ<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>わ<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>る<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>ある  
女郎<sup>ぢやうらう</sup>でござい<sup>い</sup>な<sup>な</sup>後<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>妙<sup>めう</sup>サ<sup>サ</sup>大<sup>だい</sup>サ<sup>サ</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
佳人<sup>かじん</sup>花<sup>はな</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>こ<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>バ<sup>バ</sup>そ<sup>そ</sup>め<sup>め</sup>であ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>







百三十一 大 け子こちもなうけけ一個の名妓こまら  
 どきり 嗚呼 梳推とでけい 女おちり廊下と  
 了 悦えんおめく今の姿をまつてさう 大 今こそを  
 多ッ 女樂う 了 女者ヨ 大 我未知之ぬの  
 了 あくまぬぬ流る者とさうちやアうらうらうとさうら  
 廊下とさうらうらうさうらう目もわくよさうら  
 あつやアこーろ 櫛を買て二日めでさく  
 了 大 ウイリくこらやアえせさうらうらうの

らな十九

櫛七人の髪よさうこのさうけさせてめ  
 了 のさうらう 了 うさアぬ 大 コウふく  
 茶とつふ水とツ吃入 茶女 お茶でござる  
 まい 大 ウ 女 おてありましやう 了  
 了 了 廊下とさうらうあぐいあんど 了  
 あるア江戸町へさられていうあつこ客  
 人とつらめてきんしこの 大 其平也  
 君子あり 了 了 どこへさうらう 大





















琴ホレニそふでござんてあんなぼろちがは  
 れてつらぐま負ぶといつても合もせむ  
 付くうく擲くうまはく酒れ落でござん  
のサト隣の色男へあそびの色男ののびて  
よる名の油でかき  
ひそくふあて  
それとあな  
我身よじて  
 あやアそくあやハあくのサリちアア  
 くらぬくろがあれハよとおろさぞよはて  
 さぞくとくあくさくアアぶでござんて

ちると川くをせけておいらう振か者も  
 くらでえあや又アろを味の魚いぶよとら  
 初ひろ廣いさとさうろ骨を鮎とめは五五帝  
 丸くぬく目がくく歌ハまがおおぶぶ  
 うらららふふぞぞなれなららままががままががまま  
 せまのぬく初めれていいる人まららまま  
 ハほれ下がござんせん  
 おささぶぶああーーかかひひよよままの  
 琴







ろちのせれぶらう氣やうがり何  
又例のお怒が大酒をてしめさうたうら  
そらとるがくそんくら三朝う聖より  
くらぶをし雨次が来ていりる金鉢や  
百や染身お灸悔が来ていて大酒  
は志中れて居し雨次がそれと深川  
ひいていふと云腹であを向さうらア  
ろちくらな氣ぶりのを何らくめし

一此の土橋の形尾を唐科現と喰  
ひいふとらそ二三人神と連てらるが  
中おお揚をうらうとみやのがあつそ  
口とうけし取が龜屋の出まをあらうて  
アサリ河をまぎらうと云からそれや  
とどまらぬと仲町へ行ぬ具うして  
海本とお目よかけ今離れやお  
と云此の何あがあらうちらびと付込



の相子あひこ尋まいで遊あそぶつらうであつたが花はな  
大おほ名の舛まがめらが渡わたりぢうあでうせ  
やアがううて一いつ休やすみいらり吉原きちげんで育そだつら  
深川ふかがわへゆくところあつたがまるヨホニさう  
さ垢あかの芳よし世よのめんで佳よ六むよあつた  
け今時いまときかといくとらりさう代北しろきたの  
甲子かろしふめりまきとらりさうが大方おほほう又津つ  
榴璃りゅうりぶらう文魚ぶんぎよが江戸えど節ふしハ黒くろ

りのぶらうさうやアそふと角かく町の萩はぎ又  
いふよの俄はなの世話せわで揚弓やまゆりもひけめ  
久ひさ後ご違ちがひ黒くろ江えの八はち頃ころ日ひ金川かねがわの別べつ  
産うみあもをぬくところてま信しんをしてよ  
こーたうけあつたハ時とき夜よこさうとあつた  
が茶ちやふちをれさうついでるんが今いまマ  
も三さん外がいが取とりあつたあるところてよ  
びよきたがことさうといつてころちく















有 てぶらまやゆいんうきんと  
あふうちまひとほくまて **菱** 新 モシ へらあつて  
 お目よかりんやう **三** だれさんご何で  
 とぞ **菱** 外のころてもどざんせんが終  
 ぬーハ魚街 カヨ さんをきつておめんまをふ  
 ぶざむぶめてそれをあうらうおいらんの  
 ね出るんーのハ何ぞいけるもどざんやう  
 ねらんどのあう魚街さんハおいらん  
 久 **菱** 出めんまあ人のこむらうらあ

さんお 新 氣 た の た 毒 あ くら ら 合 あ 音 ハ ひと り お 休  
 かんておらんーそれをえいめうら  
 どんーいせハおいらんもてめんまのーやア  
 こさういせん ト いひまて **三** これ、あふ口、ち  
出でたり あふち  
 こうらまをれとせんうさかくうさうさうさうさう  
 さいつそり 寒ハあらぬ人さといひあをーも  
 め ま ア ん 中 く 振 ら あ け れ い け と 廊 下 へ 出 て  
 れ ん どの を と を 見 れ る む ぶ の 屋 根 よ へ 二 へ ん  
 かん ま が あ ち と ち り する 骨 の 海 を **鳥** ア ホ ウ  
 さい を み ら ー く よ こ め て 見 て  
 ア ホ ウ





是を所謂未至通の  
徒有ふべ多平

洞房妓談教繁十話畢

馬骨を何取の馬の骨を  
あ保平。馬骨ハ二人の名を  
〜一人の名をあ〜。馬骨を  
る也とて〜。馬骨をあること  
を〜。馬骨を〜。馬骨を  
馬骨あ保平とあ〜。馬骨



る骨乃名とのが尻べー  
まろいふ

京傳自跋

實政の

成乃書日

一三二六七

ちり終



